

平成23年度

第5次鯖江市総合計画推進にかかる施策方針

～産業環境部～

第5次鯖江市総合計画の着実な推進を目的として、平成23年5月に策定した施策方針の取組結果について、次のとおり報告します。

平成24年3月

産業環境部長 辻 本 正

1 総括

- 1 「作るだけの産地」から「作って売る産地」への転換を促進し地場産業の振興を図るため、鯖江商工会議所等と協調し、新製品・新技術開発や異分野・異業種への進出を支援し、新たなものづくりやサービスの創出に努めました。また、市内企業への訪問活動に取り組み、支援メニューの周知や情報の共有化を図ることで、現場ニーズに即した企業支援を行いました。また、地方の元気再生事業を通し、デザイン力・マーケティング力の向上を目指した取り組みに努めました。さらに、企業誘致に積極的に取り組んだことで、年度内に新たに4企業が創業を開始し、市民約40人の雇用が創出されました。
- 2 鯖江ブランド情報として、鯖江市のものづくり技術や企業・製品・産業観光等に関する情報を、さまざまな手段、機会を通じて積極的に発信しました。
また、小学校の授業に眼鏡・繊維・漆器の体験施設での「ものづくり体験」を組み込むことや、つつじまつりやもみじまつりなどのイベント開催時に、気軽に地場産業の体験の場を設けることで、子どもたちが地域の産業技術力や歴史を実際に見て・聞いて・触れる機会を創出しました。
さらに、ホームページを活用し地場産業情報を中心に定期的な情報更新を行うとともに、国際的な展示会等で積極的な産地PRを行うことで、鯖江ブランドの情報発信に努めました。
- 3 中心市街地の活性化に向けて、商工会議所、地元住民、学生、商店街などと連携・協働して、商店街の空き店舗対策をはじめとした「鯖江街なか賑わいプラン」事業の推進に取り組み、個性と特徴のあるまちづくりに努めました。
さらに、街なかにおける学生、若者の活動拠点「らてんぽ」を中心に、若者の感性や知恵、行動力を活かしたまちづくりに取り組みました。
- 4 仕事と子育てが両立できる職場づくりを支援する「育児休業代替要員確保支援事業補助金」制度のPRに努めるなど、事業所におけるワーク・ライフ・バランスの推進を図りました。
企業の活性化や企業誘致を促進することにより、働く場の創出、労働者の定住を図りました。また、ニート、フリーター対策事業を通して、若者の就業への意識向上に努めるとともに、地元への就職を希望する若者を対象とした「就活セミナー」では、地元企業の方を講師とし、より実践的な取り組みでの就業率向上を目指しました。
- 5 利用者にも環境にもやさしいつつじバスについては、新路線「歴史の道線」開設、公立丹南病院までの路線延長をするなど更なる利便性の向上を図りました。福井鉄道福武線についても、地域の大切な公共交通機関として沿線市と連携し、さまざまな利用促進策を展開し、利用客の増加に取り組みました。

- 6** 鯖江特産のさばえ菜花、さばえ夢てまり(マルセイユメロン)、ブロッコリー、ミディトマトや鯖江の伝統野菜である吉川ナスなど特色ある農産物の振興のため、新たな販路の開拓、市内外でのPR販売、都会でのPR、農業者と消費者を結ぶツアーや特産農産物を使用した料理講習等を開催し、地産地消とさばえブランドの確立に努めました。
- 7** 減農薬、減化学肥料など環境にやさしいエコ農業で水稻栽培に取り組む農家に助成することで、消費者ニーズにあった安全安心なさばえ米の生産に努めました。学校給食畑が全小学校で整備を終え、給食への地場産野菜の供給を始め、農作業体験や農家との触れ合いにより、子供たちの食農教育を推進しました。また、平成26年春開設を目指す、西山公園道の駅地域振興施設として直売所等の機能を持たせた施設整備について検討しました。
- 8** 地域農業の担い手となる認定農業者、集落営農組織、農業生産法人の育成と新規就農や退職者等の帰農による農業者の確保および農地の面的集積と農業経営の改善による農業者の経営基盤の強化を促進し、持続できる地域農業の確立と振興に努めました。
- 9** 「農地・水・環境保全向上対策」による管理体制強化に加え、新たな「農地・水保全管理支払」によるストックマネジメント手法での長寿命化の推進、ならびに水門維持研修会等による農業用施設等の適正管理に対する啓蒙・普及により、快適で災害に強い農村環境づくりに努めました。
- 10** 森林整備計画策定の過程において、市民に対し、森林資源の重要性の認識および森林保全意識の高揚を図りました。また、森林整備計画に基づいた森林整備等を推進し、森林の保全・保護と健全な森づくりに努めました。
山ぎわ農地の保全および農産物の被害防止、地域住民の安全安心の確保のために鳥獣害の被害防止に努めました。
- 11** 地域資源を活かした鯖江ならではの加工品づくりなど(桑茶、玄米ヨーグルト、鯖江産そばハチミツや、学校給食でのマルセイユメロンのゼリー提供)6次産業への転換による新たな地域ブランドの定着を図り、農商工連携の積極的な推進に取り組みました。
- 12** 人と生き物の共生をめざす地域づくりと人づくりを進めるため、里地里山における生物多様性保全活動促進事業として、市が平成21年4月から環境保全区域として指定している河和田地区の金谷川、河和田川とその周辺における生物調査を実施するとともに、町内会や地元の環境保護団体と連携して、田んぼの生き物、川の生き物および野鳥の各観察会を開催し、自然保護意識の啓蒙を図りました。
- 13** 市域における地球温暖化対策に取り組むため、鯖江市環境審議会に諮り、同審議会の答申をもとに、鯖江市地球温暖化対策地域推進計画を策定しました。なお、計画では、市民・事業者・行政(市)などが緊密に連携・協働し、あらゆる主体が一丸となって温暖化対策に取り組むため、温暖化対策を推進する新たな組織をつくり、計画の進捗状況の点検、計画の見直し等について協議していただくこととしました。
- 14** 地球温暖化防止・循環型社会構築のため、ごみ減量・資源化向上の啓発を、広報さばえ・ホームページへの掲載や「ごみ減量・資源化標語コンクール」にて実施しました。さらに積極的に各地区への出前講座を行なうとともに、資源物ステーションでの分別排出指導を実施しましたが、1人1日当たりのごみ排出量は増加しました。
- 15** 鯖江市環境教育支援センター(エコネットさばえ)を拠点として、こどもから高齢者まで幅広い世代を対象に、世代ごとの環境支援事業を行い、環境市民育成に取り組みました。また、目に見える地球温暖化防止の啓発事業として、第2回「グリーンカーテンコンテスト」を実施しました。

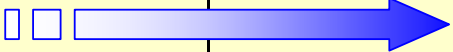
2 課題

- 1 「めがねのまち鯖江元気再生事業」の取り組み成果として、若手経営者12名による鯖江ブランドの研究会が結成され、今後の展開に大きな期待が寄せられている。今後とも、産業界の自主的な活動を支援し、我が国唯一の眼鏡産地「鯖江」製品のブランド力の向上、地位の確立に繋げることが重要と考えられる。
- 2 市内ものづくり企業等の中長期的な振興育成を図ることを目的に実施している新製品・新技術開事業や新事業創出・業種転換事業に継続して取り組むとともに、企業誘致等により外部から新たに市内に立地した優良企業との事業交流・マッチングを図ることで、地域産業の新展開に結びつくような流れを構築したい。
- 3 2010年農林業センサスによれば、市内の主に農業に従事してた方445人中、65歳以上の方が占める割合は70%となる。現在、認定農家や集落営農等で本市の農業を担われてる方は85経営体あるが、ここにも高齢化の波は押し寄せているため、経営体の後継者や新たな担い手の育成および農作業の効率化、省力化を図るための農地集積が喫緊の課題である。
- 4 農業の6次産業化、農商工連携事業については、兼業農家が多く、生産者が高齢化しており園芸作物の生産量自体も少なく、加工・販売に関するノウハウも少ないため、リスクを克服して事業に取り組む経営体が少ないのが現状である。そのため、消費者ニーズを把握し、農業者と加工・販売をコーディネートし、外部からサポートするなど、6次産業化に取り組みやすい環境を整備する必要がある。
- 5 1人1日当たりのごみ排出量は、1,030gと前年度に比べ増加した。この状況を改善し、平成26年度目標値の900gを達成するため、新年度に創設する新聞雑誌等の古紙類や空き缶の集団回収に対する奨励金制度の活用促進等により、ごみ減量化・資源化の更なる推進を図る必要がある。
- 6 平成23年度策定の「鯖江市温暖化対策地域推進計画」に掲げる目標を達成するためには、家庭でのCO2削減が重要であることから、積極的な削減活動に取り組む世帯の増加を図る必要がある。

3 重点的に進める項目の取組結果

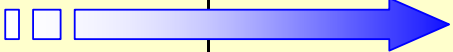
	<取組項目>	<取組結果>
1	■ 「作るだけの産地」から「作って売る産地」への転換 いち早い経済不況からの脱却を目指し、業界・企業の新製品および新技術の開発、海外販路開拓、異分野進出、自社ブランド育成等による産業の高度化、新分野への進出および起業家の創業を支援します。また、企業間や大学等の研究機関との連携や企業の人材育成等を推進します。また、デザイン力・マーケティング力の向上に努めることで「作るだけの産地」から「作って売る産地」への転換を図り、活気あるものづくりのまち鯖江を目指します。さらに、福井県、金融機関、宅建業界等と連携して工場適地情報および企業の設備投資情報の収集に努めます。 ◆ 新製品・新技術開発事業および新事業創出・業種転換事業実績件数 10件（累計数52件） ◆ デザイン力・マーケティング力向上のためのセミナー等の開催 10回 ◆ 企業訪問活動（景況把握、支援制度啓発、設備投資情報収集、要望聴取） 70社 ◆ 企業等への支援制度の情報発信（広報） 3回 ◆ ものづくり支援機構との調整会議の開催 3回	【成果等】 目標を達成しました。 市内企業への訪問活動を積極的に行い、企業経営者等とのコミュニケーションを密にすることで、産地の実態と企業ニーズを把握するとともに、各社に対し、補助金の支援メニューの活用を促しました。また、地方の元気再生事業を通し、デザイン力・マーケティング力の向上を目指した取り組みに努めたことで「作る産地」から「作って売る産地」への転換を目指しました。 また、積極的に企業誘致に努めたことで、年度内に新たに4企業が創業を開始し、市民約40人の雇用が創出されました。 ◆ 新製品・新技術開発事業および新事業創出・業種転換事業実績件数 13件（累計数65件） ◆ デザイン力・マーケティング力向上のためのセミナー等の開催 10回 ◆ 企業訪問活動（景況把握、支援制度啓発、設備投資情報収集、要望聴取） 230社 ◆ 企業等への支援制度の情報発信（広報） 6回 ◆ ものづくり支援機構との調整会議の開催 3回
2	■ 地場産業後継者育成応援事業 鯖江市の地場産業（眼鏡・繊維・漆器）を後世に伝承・発展させ、産地が培った高度な職人技を地域に残し、地域産業の振興に資するため、地場産業への就職希望者に対して、産地企業において働きながら熟練技の継承の機会を提供し、円滑な就業を促進し後継者の育成を図ります。 ◆ 眼鏡・繊維・漆器の各企業における後継者育成事業取組社数 19社	【成果等】 目標を概ね達成しました。 平成21年度から23年度までの3カ年に渡り、ふるさと雇用再生特別基金事業を活用して取り組みを進めてきたことにより、3カ年で20企業（眼鏡10、繊維5、漆器5）との委託契約を締結しました。 また、平成23年度は、17企業（うち新規2企業）と委託契約を締結し取り組みを進めたことで、事業終了時において、12人の継続雇用が確定し、後継者の育成に努めることができました。 ◆ 眼鏡・繊維・漆器の各企業における後継者育成事業取組社数（平成23年度契約数） 17社
3	■ 鯖江ブランドの情報発信 鯖江市の地場産業（眼鏡・繊維・漆器）に関する企業・製品・産業観光等の各種情報を、ホームページなどの媒体や展示会、イベント等の機会をとおして鯖江ブランドとして全国的に情報発信します。また、各産業観光拠点施設との連携やイベント等を活用し、子どもたちが地域の産業技術力や歴史を実際に見て・聞いて・触れる機会を創出し後継者育成に繋げることで、鯖江の地場産業の活性化を図ります。さらに、地域の宝である地場産業をはじめ自然や歴史・伝統・文化なども鯖江ブランド（観光資源）として捉え、情報発信と誘客に努めます。 ◆ ホームページによる情報発信 24回 ◆ 展示会を活用した情報発信 2回 ◆ イベントを活用した情報発信・体験機会の提供 2回 ◆ 眼鏡・繊維・漆器の企業体験実習、講座の実施（丹南高校での授業） 2回 ◆ FMふくいによる産業観光情報発信 10回 ◆ 観光客入込数 120万人	【成果等】 目標を達成しました。 小学校の授業に眼鏡・繊維・漆器の体験施設での「ものづくり体験」を組み込むことや、つつじまつりやもみじまつりなどのイベント開催時に、気軽に地場産業の体験の場を設けることで、子どもたちが地域の産業技術力や歴史を実際に見て・聞いて・触れる機会を創出しました。 さらに地域の宝である地場産業をはじめ、自然や歴史・伝統・文化を題材とする事業を実施することで、情報発信と誘客の促進に努めました。 また、ホームページを活用し、地場産業情報を中心に定期的な情報更新を行い、アクセス数の増加に努めました。さらに国際的な展示会等で鯖江ブランドの情報を発信するコーナーを設け、積極的に産地PRを行いました。 ◆ ホームページによる情報発信 40回 ◆ 展示会を活用した情報発信 2回 ◆ イベントを活用した情報発信・体験機会の提供 4回 ◆ 眼鏡・繊維・漆器の企業体験実習、講座の実施（丹南高校での授業・企業訪問） 3回 ◆ FMふくいによる産業観光情報発信 20回 ◆ 観光客入込数 139万人

	<取組項目> 	<取組結果>
4	■ 鯖江街なか賑わいプランと学生連携事業の推進 ①商店街の活性化や観光の振興など、中心市街地の活性化に向けて、商工会議所、地元住民、学生、商店街などと連携・協働して「鯖江街なか賑わいプラン」事業を推進することで、個性と特徴のあるまちづくりに努めます。 ②「らてんぼ」を拠点とし、若者の感性やニーズなどを活用して、商店街の活性化やものづくりの活動に積極的に取り組めるよう支援します。併せて、学生、商店街、市民などとの交流の場として様々な活用が図られるようPRに努めます。 ①◆ 賑わいプラン41事業の実施率 80% ◆ 賑わいプランの数値目標設定事業33事業について、達成率 80% ②◆ 「らてんぼ」来店者数 7,500人 ◆ 「らてんぼ」を活動拠点とした企画事業の開催 5件	【成果等】 目標を概ね達成しました。 ①商店街の活性化や観光の振興など、中心市街地の活性化に向けて、空き店舗対策事業や商店主が講師となり開催したまちのゼミナールなど、商工会議所、地元住民、学生、商店街と連携・協働して「鯖江街なか賑わいプラン」事業を推進することで、個性と特徴のあるまちづくりに努めました。 ②学生や若者の活動拠点としての「らてんぼ」の活用については、誠市・ご縁市の開催にあわせた独自の企画事業の展開や、学生団体「with」を中心とした活動など、学生、商店街、市民などとの交流の場として様々な活用を図りました。また、ブログを活用した、商店街の店舗情報の発信に積極的に取り組みました。 ①◆ 賑わいプラン41事業の実施率 90% ◆ 賑わいプランの数値目標設定事業33事業について、達成率 58% ②◆ 「らてんぼ」来店者数 7,200人 ◆ 「らてんぼ」を活動拠点とした企画事業の開催 11件
5	■ ワーク・ライフ・バランスの推進 仕事と生活の調和を図るワーク・ライフ・バランスの推進により、仕事と家庭が両立できる働きやすい環境づくりの促進に努めます。 ◆ 育児休業代替要員確保支援事業採択件数 5社 ◆ 広報紙等による啓発活動 3回 ◆ ワーク・ライフ・バランスの計画の策定事業所数 5社	【成果等】 目標を達成しました。 仕事と子育てが両立できる職場づくりを推進する事業所を支援するため、昨年度創設した「育児休業代替要員確保支援事業補助金」制度のPRに努めるなど、事業所におけるワーク・ライフ・バランスの推進を図りました。 ◆ 育児休業代替要員確保支援事業採択件数 5社 ◆ 広報紙等による啓発活動 3回 ◆ ワーク・ライフ・バランスの計画の策定事業所数 10社
6	■ 就業率向上対策の推進 「団塊の世代人材バンク」を活用して、団塊の世代への就業機会の提供と市内企業の振興に努めます。また、若者就職カウンセリング事業を実施し、若者の就業への意識向上に努めます。さらに、求職中の若者や団塊の世代に対する就業チャレンジ支援として、講習会等を開催する就職サポート事業を実施し、就業率向上を目指します。 ◆ 団塊の世代人材バンクの活用 ・登録者数 100人 ・登録企業数 50社 ◆ 若者就職カウンセリング事業の実施 ・開催数および参加者数 25回 150人 ◆ 就職応援セミナーの実施 ・開催数および参加者数 3回 120人 ◆ 広報誌等でのPR 10回	【成果等】 目標を概ね達成しました。 鯖江商工会議所に運用を委託している「団塊の世代人材バンク」の登録数の向上を目指しましたが、目標値には届きませんでした。また、若者就職カウンセリング事業として、普段着若者就職相談やふくい若者サポートステーション出前相談会等を開催し、若者の就業への意識向上に努めました。さらに、地元への就職を希望する若者を対象とした就活セミナーを開催し、地元企業の方を講師とすることで、就業率向上を目指しました。 ◆ 団塊の世代人材バンクの活用 ・登録者数 70人 ・登録企業数 39社 ◆ 若者就職カウンセリング事業の実施 ・開催数および参加者数 28回 71人 ◆ 就活セミナーの実施 ・開催数および参加者数 6回 80人 ◆ 広報誌等でのPR 21回

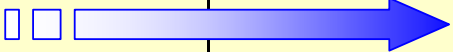
	<取組項目> 	<取組結果>
7	■ 公共交通機関の利用促進 ①「乗ろう、守ろう、みんなのつつじバス」を合言葉に、つつじバスの利用促進のための利用者アンケート調査を実施するとともに、家族あいのりの旅事業などを通して高齢者や家族に乗り運動や啓発活動を展開し、より一層の利用促進に努めます。また、更なる利便性向上を目指し、運行体系の見直しを行います。 ②福武線の利用促進を目指し、福井鉄道福武線利用促進鯖江市民会議と沿線市と沿線住民で構成する福井鉄道福武線サポート団体等協議会が連携・協働して利用促進の運動に努めます。 ①◆ 年間利用者数目標 20万人 ◆ 利用者に対するアンケート調査 2回 ◆ (仮)歴史の道線の増設等、運行体系の見直し 平成23年12月までに ②◆ 鯖江市内駅の利用者目標 45万人 ◆ 野外活動等支援事業の利用者数 3,000人	【成果等】 目標を達成しました。 ①「乗ろう、守ろう、みんなのつつじバス」を合言葉に、つつじバスの利用促進のための利用者アンケート調査を実施しました。また、家族あいのりの旅事業などを行うなど乗る運動や啓発活動を展開しました。さらに、アンケートや地元の要望を元に「歴史の道線」の新設や丹南病院への路線延長の24年度実施に向けての協議を調えるとともに、バス停の移動などを行い利便性向上を図りました。 ②福武線の利用者増加を目指し、福井鉄道福武線利用促進鯖江市民会議などの市民団体が、つつじまつりやもみじまつり、誠市などのイベントと連携した乗る運動を行いました。さらに、高齢者のハッピー1日フリー券利用者に対しつつじバスとの乗り継ぎを支援するなどきめ細かな利用促進運動を展開しました。 ①◆ 年間利用者数 19万人 ◆ 利用者に対するアンケート調査 2回 ◆ 歴史の道線の増設、丹南病院への路線延長 平成23年4月から ②◆ 鯖江市内駅の利用者目標 45万人 ◆ 野外活動等支援事業の利用者数 8,200人
8	■ 農産物の生産振興の促進 消費者のニーズに応え、良品質で安全安心な農産物を安定的に供給できる産地づくりや地域にあった少量多品目野菜の提供を目指して、生産者と消費者との連携強化のシステム作りや新たな商品づくりおよび地域ブランド化を目指して取り組みます。また、将来の農産物自由化の国際化競争に打ち勝つ基盤づくりに努めます。 ◆ ブロッコリー・マルセイユメロン・ミディトマトの出荷量 平成22年産出荷量の2%UP ◆ カントリーエレベーターの食味値の平均値 80点 ◆ 菜花を播種し不耕作水田の景観等による利活用を図った面積 10ha	【成果等】 目標を概ね達成しました。 本市特産物を代表するブロッコリー、マルセイユメロン、ミディトマト等の出荷に対し助成し生産量を増やすことで、消費者が望む安心安全な地場産農産物の生産に努めました。カントリーエレベーターに食味計を整備し、おいしい米づくりに取り組み、さばえ米のブランド化に向け努めました。 ◆ ブロッコリー・マルセイユメロン・ミディトマトの出荷量 ・ブロッコリー出荷量 H22年度 5,387kg H23年度 9,009kg 対H22年度比67.2%UP ・マルセイユメロン出荷量 H22年度 10,008個 H23年度 10,761個 対H22年度比7.5%UP ・ミディトマト出荷量 H22年度 9,024kg H23年度 11,169kg 対H22年度比23.8%UP ◆ カントリーエレベーターの食味値の平均値(コシヒカリ) 76点 ◆ 菜花を播種し不耕作水田の景観等による利活用を図った面積 4.7ha

	<取組項目> 	<取組結果>
9	■ エコ農業と食育・地産地消の推進 消費者ニーズにあった安全安心で地元産の農産物の消費拡大を図り、地域経済循環を推進するため、市民に広くPRを実施するとともに、生産者と消費者の交流を通じ、「食」を通じた農業・農村への理解を図ります。 ◆ エコファーマーの認定数 100人 ◆ 特別栽培の作付面積 80ha ◆ 食育イベントの開催 来場者数 食育フェア 1,400人 ふるさとの日ふるさと料理を楽しむ会 250人 ◆ 学校給食への地場産野菜提供100%イベントの開催〔6月・11月〕 小中学校15校、幼稚園7園 14,000人 ◆ 学校給食への鯖江産農産物提供のための体制づくり 学校給食畑設置 4校 (平成23年度で全小学校で学校給食畑整備完了予定) 提供応援体制の検討	【成果等】 目標を達成しました。 減農薬、減化学肥料により栽培する農家を支援することで、消費者が求める安全安心な農作物の生産に努めました。 イベント開催時や広報等で市民の方に広く周知すると共に、直売所、学校給食畑等での消費者、児童と生産者との交流をとおして「食農」への理解を深めました。 ◆ エコファーマーの認定数 136人 ◆ 特別栽培の作付面積 77.6ha ◆ 食育イベントの開催 来場者数 食育フェア 1,980人 ふるさとの日ふるさと料理を楽しむ会 300人 ◆ 学校給食への地場産野菜提供100%イベントの開催〔6月・11月〕 小中学校15校、幼稚園7園 13,914人 ◆ 学校給食への鯖江産農産物提供に向け、残り4校で学校給食畑を設置し全小学校において整備完了。 各校の学校給食畑連絡協議会を設立し、提供・応援体制を協議した
10	■ 地域農業の担い手育成と農村の活性化 農業者戸別所得補償と県・市の関連事業を通じた支援を活用し、農業者の経営安定を目指すとともに、認定農業者、農業生産組織等の育成と農地利用集積、新規就農と退職者等の帰農による多様な農業者の確保を促進し、地域農業の担い手づくりを推進します。 ◆ 農業者戸別補償制度への加入促進 95% ◆ 新たに認定する認定農業者 3人 ◆ 新たに法人化する農業生産法人 1組織 ◆ 新規就農者 2人 ◆ 農用地利用権設定 1% (20ha) 増加 ◆ 担い手への農地利用集積の増加 40ha	【成果等】 目標を達成しました。 県、J A、市の関係機関から構成される市農業指導連絡会を開催し、戸別所得補償制度の円滑な事業推進について協議し、その結果を受けて各機関が農家の方々への周知に努めました。 市内10地区の農家組合長会議、個々の集落や生産組織の会議に出向き戸別所得補償制度、法人化や農地集積等の説明を行い、米の生産調整、生産組織の法人化、農地集積を推進し、また担い手農業者等を対象に資料提供や研修会を開催し農業経営の改善を促進しました。 新規就農者の育成については、園芸講座を開催し新規就農者の掘り起こしを行いました。 ◆ 農業者戸別補償制度への加入促進 (加入者1,618戸/申請者1,618戸) 100% ◆ 新たに認定する認定農業者 4人 ◆ 新たに法人化する農業生産法人 1組織 ◆ 新規就農者 2人 ◆ 農用地利用権設定 1.2% (26ha) 増加 ◆ 担い手への農地利用集積の増加 114.5ha

<取組項目>		<取組結果>
11	■ 快適な農村環境づくりと災害に強い農地基盤の整備 「農地・水・環境保全向上対策」の更なる向上を目指すため、最終年度として活動の総仕上げとスムーズな運営を支援するとともに、地域協議会との連絡調整と活動団体の記録確認などを積極的に行います。また、新たな制度の「農地・水保全管理支払」への加入を促進し、農業用施設の長寿命化を図ります。 宅地化により雨水排水を農業用排水路に接続するために発生する農地冠水による水稲被害や宅地への浸水を防止するため、災害に強い活力のある農村づくりを目指します。また、河川に設置された農業用施設の施設管理者に対して、適正な管理研修を行うことで災害発生を防止・抑制します。 これらふるさとの農地等を保全するため、市と各土地改良区が連携強化し、土地改良長期計画の策定を行います。 ◆ 協定を締結した活動団体50組織の維持と活動団体による先進事例の調査 50組織 ◆ 農地・水・環境向上対策 研修会 1回 100人 直接指導 2回 200人 ◆ 農地・水保全管理対策 加入率100% ◆ 施設管理研修会の開催 2回 150人 ◆ 土地改良施設の保全業務 (農道476路線145kmや農業用幹線排水路等のパトロールによる安全性の確保) ◆ 土地改良長期計画 平成24年3月策定	【成果等】 目標を達成しました。 研修会および直接指導等を通じて、「農地・水・環境保全向上対策」は最終年度として活動の総仕上げとスムーズな運営への支援を行い、組織の強化・向上に努めました。なお、新たな制度の「農地・水保全管理支払」は要望のあった38団体の全てが採択を受けることができ、着実な活動により農業用施設等の長寿命化を図れました。 また、梅雨時期前および台風時期前に農業用施設管理者に対し研修会を実施し農業用施設の適正管理等の理解、協力を求め、土地改良施設のパトロール等を行い、災害に強い活力のある農村づくりに努めました。 なお、これらふるさとの農地等を適切に保全するため、市と各土地改良区が連携強化し、土地改良長期計画の策定を行いました。 ◆ 協定を締結した活動団体50組織の維持と活動団体による先進事例の調査 50組織 ◆ 農地・水・環境向上対策 研修会 2回 186人 直接指導 2回 210人 ◆ 農地・水保全管理対策 加入率100%(38/38組織) ◆ 施設管理研修会の開催 2回 153人 ◆ 土地改良施設の保全業務 (パトロール等による安全性の確保) 農道493路線146kmのパトロール 実施済 農業用幹線排水路等の草刈等 実施済 ◆ 土地改良長期計画 平成24年3月 策定済
12	■ 里山環境保全の推進 市民の憩いの場としての里山は、二酸化炭素の吸収、澄んだ空気の醸成や水源の涵養機能など様々な機能を有しており、里山の整備・保全を図ることは、地球温暖化対策面、生活環境や生態系保全の観点から、非常に重要な課題となっているため、市民・市民団体・事業者・行政が連携し、人と生きものが共生できる森づくりを進めることで、幅広い環境の保全に努めます。 ◆ 適切な森林整備のための林道パトロール (6ヶ月間 5～10月) 38路線 ◆ 森林施業のための作業道の整備 5km ◆ 広葉樹の植樹 2,000本	【成果等】 目標を概ね達成しました。 森林組合との連携を密にし、効率的かつ的確な林道パトロールを実施し里山等の保全に努めました。なお、作業道の整備については森林整備計画の策定が遅れ目標に至りませんでした。が、きめ細やかな森林整備計画の策定により、来年度以降の計画的かつ効果的な作業道の整備が見込めるようになりました。 森林の保全のための広葉樹の植樹については、16,000本以上の植樹が達成でき人と生きものが共生できる森づくりが急速に進展しました。 ◆ 適切な森林整備のための林道パトロール (6ヶ月間 7～12月) 38路線 ◆ 森林施業のための作業道の整備 4.1km ◆ 広葉樹の植樹 16,000本

	<取組項目> 	<取組結果>
13	■ 鳥獣害被害対策の強化 鯖江市鳥獣害防止計画に基づき、個体数の調査、調整や侵入防止柵の整備などの被害防除対策、緩衝帯の設置などの生息環境管理の取り組みを総合的に行います。 ◆ 鳥獣害対策地区等学習会の開催 15回 150人 ◆ 鳥獣害のないふるさとづくりマスタープラン 平成23年12月策定 ◆ 鳥獣害対策、被害状況の啓発 5回 ◆ 緩衝帯の設置約6km、電気柵設置約16km ◆ アライグマ捕獲従事者講習会の開催 2回 100人 ◆ 鳥獣害対策リーダー育成支援の対象者 30人 (県狩猟免許取得費用助成対象者)	【成果等】 目標を概ね達成しました。 鯖江市鳥獣害防止計画に基づき、イノシシ、アライグマ、ハクビシン、サル等の有害駆除の実施、緩衝帯、電気柵の整備および山ざわ集落へ出向き情報提供と学習会の開催するなど、総合的な被害防止対策を行いました。 鳥獣害のないふるさとづくりマスタープランの策定により、市民と行政が協働して取り組む方法を明確にすることで、市全体で取り組む体制を構築しました。 ◆ 鳥獣害対策地区等学習会の開催 22回 465人 ◆ 鳥獣害のないふるさとづくりマスタープラン 平成24年3月策定 ◆ 鳥獣害対策、被害状況の啓発 17回 ◆ 緩衝帯の設置6.5km、電気柵設置約5km ◆ アライグマ捕獲従事者講習会の開催 1回 33人 ◆ 鳥獣害対策リーダー育成支援の対象者 16人 (県狩猟免許取得費用助成対象者)
14	■ 農商工連携事業の推進と鯖江産農林産物を活用したブランドづくり 農業経営の改善や中小企業者の経営向上を目指し、1次、2次、3次の産業の壁を越えて有機的に連携し、相互にノウハウ・技術等を活かし、鯖江ならではの商品開発など6次産業への転換による新たな地域ブランドへの創出・定着を図るとともに、米、大麦、大豆や、さばえ菜花、マルセイユメロン、ブロッコリー、吉川ナス、ミディトマト等の鯖江産の農林産物の販路開拓、販売促進、ブランド化を推進します。 ◆ JA、商工会議所、森林組合等との連携を強化し農商工連携報告会の開催 1回 ◆ 農・商・工の各業者間のマッチングによる新たな流通ルートの開拓 2ルート ◆ 農・商・工の各業者間の連携による新商品開発 3品 ◆ 農と消費者を結びつけるツアーの開催 1回 20人 ◆ 都会での特産品のPR 1回 ◆ マルセイユメロンフェア、イチゴフェアなど特産野菜等を普及する企画実施 2回 ◆ わが村自慢の一品の創出 2品 ◆ さばえ菜花安定供給の体制づくり 1組織 ◆ 吉川ナス、さばえ菜花などのブランド化を推進し商標登録を行う 2品目 ◆ 鯖江産野菜の地産地消を推進するさばえ菜花ネットワークの運営支援 ◆ さばえ菜花米の作付け等ブランド米の研究	【成果等】 目標を概ね達成しました。 農業者と商工業者がお互いの強みを有効に利活用し新商品の開発、販路開拓、新サービスの開発等に取り組み、収益拡大、消費者の便益向上に努めました。 ◆ JA、商工会議所等との連携を強化し 農商工連携研究会の開催 3回 農商工連携委員会の開催 2回 ◆ 農・商・工の各業者間のマッチングによる新たな流通ルートの開拓 3ルート ◆ 農・商・工の各業者間の連携による新商品開発 3品 ◆ 農と消費者を結びつけるツアーの開催 2回 31人 ◆ 都会での特産品のPR 5回 ◆ マルセイユメロンフェア、イチゴフェアなど特産野菜等を普及する企画実施 2回 ◆ わが村自慢の一品の更新 一部更新 ◆ さばえ菜花安定供給の体制づくり 1組織 ◆ 吉川ナス、さばえ菜花などのブランド化を推進し商標登録を行う 2品目 ◆ 鯖江産野菜の地産地消を推進するさばえ菜花ネットワークの運営支援 ◆ さばえ菜花米の作付け等ブランド米の研究

	<取組項目> 	<取組結果>
15	■ グリーンツーリズムの推進 農を中心とした鯖江版地域交流トキワ荘プロジェクト(2011さばえファームリーグ)等の事業を通じ都市と農村の交流を促進し、休耕地の利活用を図ります。 ◆ 県内のファミリーや若者たちによる、休耕地を活用した週末農業 20人 ◆ 関西圏、東京圏からの誘客による農業体験 1回 20人 ◆ 地場産業と連携したグリーンツーリズムの実施 1回 20人 ◆ 農家と都市住民を結びつけるツアーの開催 1回 20人 ◆ 市内を訪問した都会の団体への地場農産物の提供 2回 30人 ◆ 都会でのプロジェクトPR 1回	【成果等】 目標を達成しました。 農を中心とした2011さばえファームリーグ等の事業を通じ都市と農村の交流を促進し、休耕地の利活用を図りました。 ◆ 県内のファミリーや若者たちによる、休耕地を活用した週末農業 34人 ◆ 関西圏、東京圏からの誘客による農村体験 2回 31人 ◆ 地場産業と連携したグリーンツーリズムの実施 2回 31人 ◆ 農家と都市住民を結びつけるツアーの開催 2回 31人 ◆ 市内を訪問した都会の団体への地場農産物の提供 2回 31人 ◆ 都会でのプロジェクトPR 1回
16	■ 自然環境の保全 河川をはじめとする本市の豊かな自然とゲンジボタルやオシドリを中心とした動植物の生息環境を保全するため、市や地域住民、環境団体、事業者の連携・協力による環境美化活動や生物多様性保全活動を実施して、自然環境保全意識の高揚と地域における環境保全活動の活性化に努めます。 ◆ 市内河川の清掃美化活動へのボランティア参加者数 8,000人 ◆ 生物調査の箇所 2箇所 ◆ 自然観察会への参加者数 100人	【成果等】 目標を達成しました。 日野川を清く美しくする会の活動と連携し、日野川をはじめとする市内河川の清掃美化活動を推進するとともに、ゲンジボタルやオシドリの生息環境を保全するため、環境保全区域および周辺の生物調査と自然観察会を開催しました。 ◆ 市内河川の清掃美化活動へのボランティア参加者数 8,100人 ◆ 生物調査の箇所 2箇所 ◆ 自然観察会への参加者数 115人
17	■ 地球温暖化防止対策の推進 鯖江市域全体のすべての活動に伴う温室効果ガスの排出抑制を図り、総合的かつ実行性の高い取り組みを推進するための計画を策定するとともに、家庭、事業所、学校等における省エネに向けた取組みや、再生可能エネルギーの活用などの地球温暖化防止活動を促進します。また、市が率先して温暖化対策に取り組むため、「鯖江市役所省エネルギー推進計画」と連動した「鯖江市役所地球温暖化対策実行計画」の策定などにより、市役所の事業活動に伴うエネルギーの低減、温室効果ガスの削減に努めます。 ◆ 鯖江市地球温暖化対策地域推進計画策定に向けた環境審議会の開催 3回 ◆ グリーンカーテンによる省エネ活動取り組み事業所数 10事業所 ◆ 住宅用太陽光発電設備設置補助件数 60件 ◆ 鯖江市役所省エネ検討委員会の開催 3回	【成果等】 目標を概ね達成しました。 市域の温暖化対策を推進するため、鯖江市環境審議会に諮り、全体会5回、専門部会2回開催し、同審議会の答申をもとに「鯖江市地球温暖化対策地域推進計画」を策定。また、省エネルギー活動を推進するため、夏季の節電対策として、「クールライフプロジェクトさばえ」の実施やグリーンカーテンの設置推進などの事業に取り組みしました。さらに、市役所の省エネ活動を推進するため、「鯖江市役所地球温暖化対策実行計画」を策定しました。 ◆ 鯖江市地球温暖化対策地域推進計画策定に向けた環境審議会の開催 5回 ◆ グリーンカーテンによる省エネ活動取り組み事業所数 19事業所 ◆ 住宅用太陽光発電設備設置補助件数 90件 ◆ 鯖江市役所省エネ検討委員会の開催 2回

	<取組項目> 	<取組結果>
18	■ 1人1日当たりのごみ排出量の低減 ごみの減量・資源化に向けた一人ひとりができる身近な取り組みを広報、ホームページ、出前講座などで啓発し、循環型社会づくりに対する市民の意識高揚に努めます。 ◆ 1人当たりのごみ排出量 970g以下 ◆ 分別啓発による資源化率 22% ◆ 地区別出前講座等による啓発 20回	【成果等】 目標を概ね達成しました。 ごみの減量・資源化率向上のため、広報・ホームページの掲載、各地区への出前講座を積極的に行い、ごみへの意識向上の啓発に努めました。 ◆ 1人当たりのごみ排出量 1,030g ◆ 分別啓発による資源化率 18% ◆ 地区別出前講座等による啓発 24回
19	■ 環境学習の充実による環境市民育成の推進 環境教育支援センターを拠点に、地球温暖化防止やごみ減量化・資源化等の環境学習講座の開催。また、春の菜花や桜、夏のお清水(三場坂・桃源・榎)やホタル、秋のもみじや植樹、冬のオシドリやコハクチョウなど、四季折々の鯖江市の豊かな自然や植樹等による緑とのふれあい体験活動。さらには、環境フェアやこどもエコクラブ活動交流会等のイベントの開催により、様々な環境問題を自らの問題として捉え、自ら行動できる環境市民の育成を積極的に推進します。 ◆ 環境教育支援センター来館者数 13,000人 ◆ 環境学習講座参加者数 7,700人 ◆ 環境さばえブランドツアー参加者数 50人 ◆ 環境フェア来場者数 1,500人	【成果等】 目標を達成しました。 環境教育支援センターを拠点として、地球温暖化防止やごみ減量・資源化等の環境学習講座の開催、また本市の豊かな自然と触れ合う環境さばえブランドツアーの開催、さらに環境フェア、こどもエコクラブ活動交流会等のイベントを開催し環境市民の育成を図りました。 ◆ 環境教育支援センター来館者数 13,000人 ◆ 環境学習講座参加者数 8,065人 ◆ 環境さばえブランドツアー参加者数 89人 ◆ 環境フェア来場者数 1,700人